

「ヨセフ」

聖徒たちと歩む聖書 ~23~
ヨセフ その1

「神のビジョンに
生かされて」

創世記37~38章 ヨセフの義とユダの罪

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 夢見る人ヨセフ

II. ユダの墮落

III. まとめと適用

信仰者の試練と

不信仰者の刈り取り

すべてを越えて進む神の計画



0. ふりかえり



神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と 子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

この「アブラハム契約」は、
アブラハムから、イサク、
そして、ヤコブへと継承されていく。



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱



【三つの主な条項】

①子孫の約束

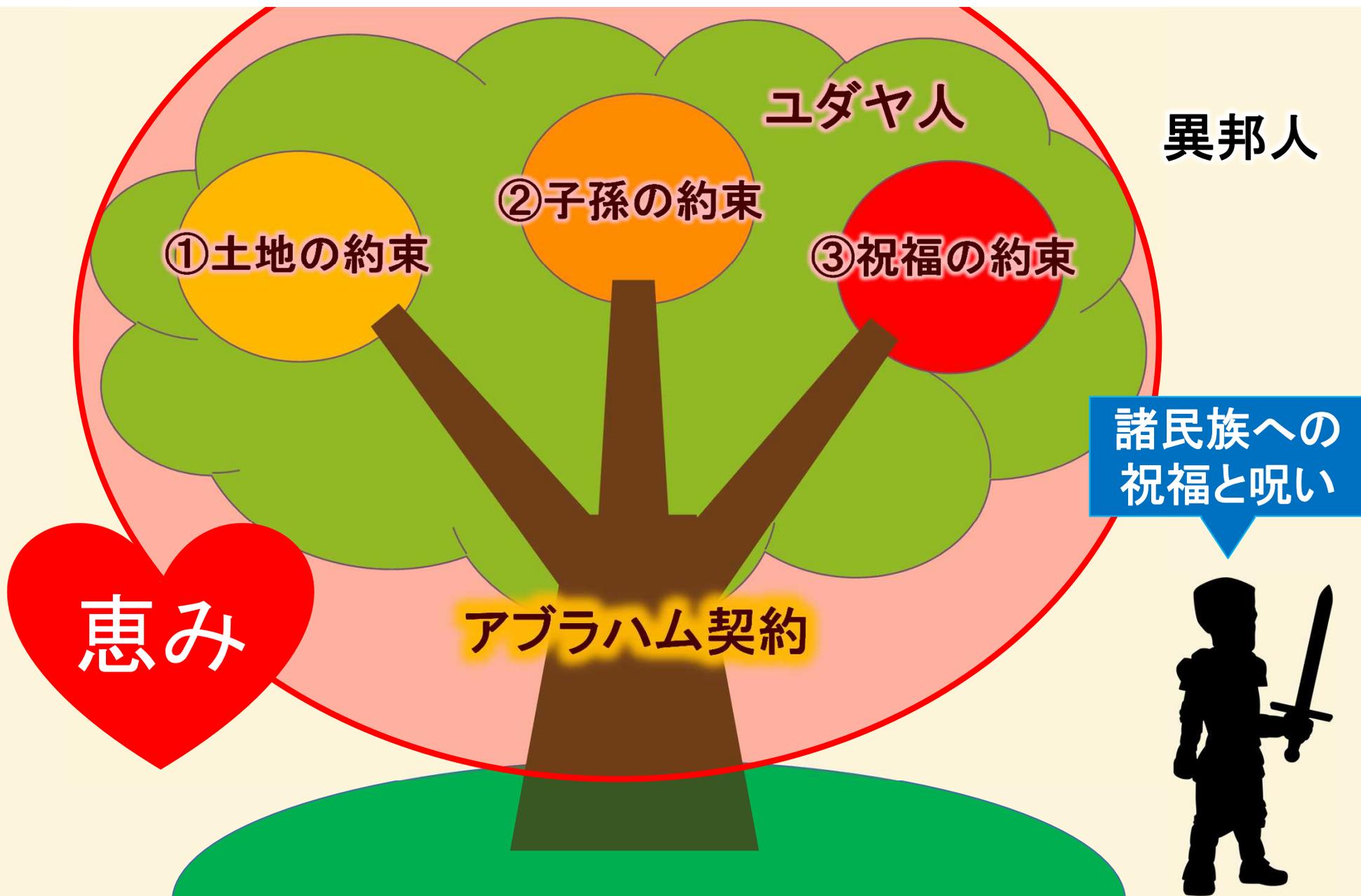
②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

【アブラハム契約】

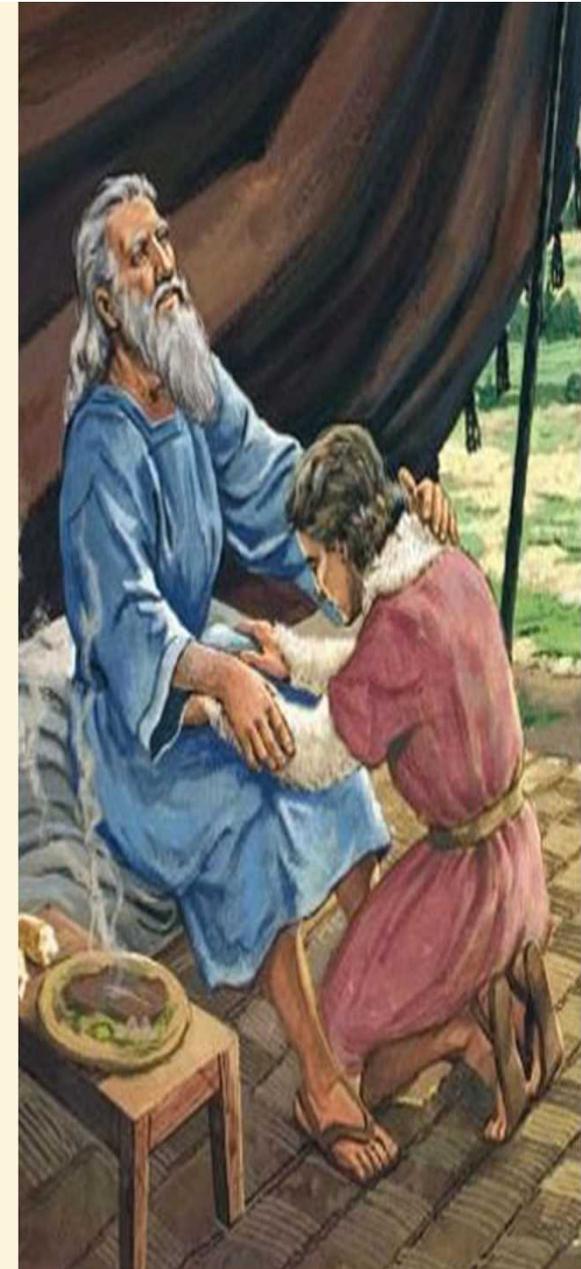


【トルドット・時代区分】

①2:4～4:26	「これは天と地が創造された時の <u>経緯</u> である」
②5:1～6:8	「これはアダムの <u>歴史</u> の記録である」
③6:9～	「これはノアの <u>歴史</u> である」
④10:1～	「これはノアの息子、セム、ハム、ヤペテの <u>歴史</u> である」
⑤11:10～	「これはセムの <u>歴史</u> である」
⑥11:27～	「これはテラの <u>歴史</u> である」 アブラハム編
⑦25:12～18	「これはイシュマエルの <u>歴史</u> である」
⑧25:19～35:29	「これはイサクの <u>歴史</u> である」 ヤコブ編
⑨36:1～8	「これはエサウ、すなわちエドムの <u>歴史</u> である」
⑩36:9～37:1	「これがセイルの産地にいたエドム人の先祖エサウの系図である。」
⑪37:2～50:26	「これはヤコブの <u>歴史</u> である」 ヨセフ編

【三代目ヤコブの生涯】

- イサク60歳の時、兄の“かかとをつかんで”誕生。
- 父イサクを欺し、兄エサウの怒りを招き、旅立つ。ベテルの地で、アブラハム契約を主より継承。
- ハランで、二人の妻を娶り、11人の子をもうける。
- 20年ぶりに帰還。神と格闘、イスラエルと命名される。兄エサウと和解。
- 約束のベテル目前のシェケムで停滞。
娘ディナの強姦、息子シメオン、レビによる大虐殺。
- ベテルでの信仰復興。
- 愛妻ラケル、末子ベニヤミンの出生時に死去。



★レアの子★

- ①ルベン ...『息子を見よ』
- ②シメオン ...『聞く』
- ③レビ ...『結ぶ・近づく』
- ④ユダ ...『ほめたたえよ』

メシア

★僕ジルパによるレアの子★

- ⑦ガド ...『幸運』
- ⑧アシュル ...『幸せ』

★レアの子★

- ⑨イッサカル ...『報酬』
- ⑩ゼブルン ...『ともに住む』

★僕ビルハによるラケルの子★

- ⑤ダン ...『裁く』
- ⑥ナフタリ ...『争う』

★ラケルの子★

- ⑪ヨセフ ...『加える』 (取り去る)

長子権

- ⑫ベニヤミン
...『私の右手の子』
(苦しみの子)

イスラエルの
12人の息子たち



I. 夢見る人ヨセフ

創世記37:1~36



【兄たちの墮落】 創37:1～2

ヤコブは、父が一時滞在していた地、カナンの地に住んでいた。これはヤコブの歴史である。*
ヨセフは十七歳のとき、彼の兄たちと羊の群れを飼っていた。彼はまだ手伝いで、父の妻ビルハの子らやジルパの子らといっしょにいた。ヨセフは彼らの悪いうわさ*を父に告げた。

- * ここから創世記の最後のトルドットが始まる。
- * シェケムでは、一族で偶像礼拝にふけり、シメオンとレビは、大虐殺まで行った!!。

ヨセフの無邪気さ 兄たちの邪悪さ



【ヨセフと10人の兄たち】創37:3～4

イスラエルは*、彼の息子たちのだれよりもヨセフを愛していた。それはヨセフが彼の年寄り子であったからである。それで彼はヨセフに、そでつきの長服*を作ってやっていた。彼の兄たちは、父が兄弟たちのだれよりも彼を愛しているのを見て、彼を憎み、彼と穏やかに話すことができなかった。

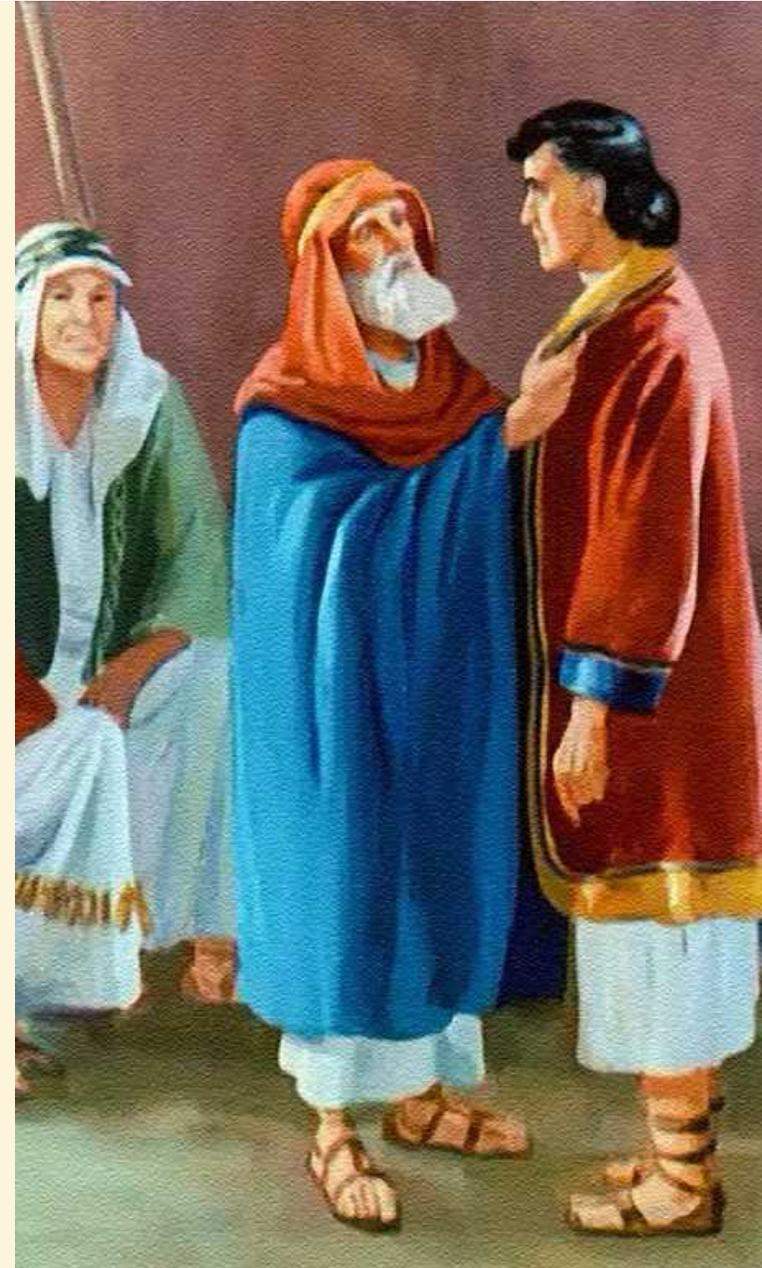
* 神に従うヤコブは、イスラエルと呼ばれる。

⇒ヨセフへの扱いは、御心に適っていた!!

* そでつきの長服 ...長子扱いということ。

■ 愛情いっぱい育てた無垢なヨセフと、

■ 嫉妬と憎悪でいっぱいだった兄たち。



【ヨセフの夢①】 創 37:5～8

あるとき、ヨセフは夢を見て、それを兄たちに告げた。すると彼らは、ますます彼を憎むようになった。

37:6 ヨセフは彼らに言った。「どうか私の見たこの夢を聞いてください。37:7 見ると、私たちは畑で束をたばねていました。すると突然、私の束が立ち上がり、しかもまっすぐに立っているのです。見ると、あなたがたの束が回りに来て、私の束におじぎをしました。」

37:8 兄たちは彼に言った。「おまえは私たちを治める王になろうとするのか。私たちを支配しようとも言うのか。」こうして彼らは、夢のことや、ことばのことで、彼をますます憎むようになった。



【ヨセフの夢②】 創 37:9～11

ヨセフはまた、ほかの夢を見て*、それを兄たちに話した。彼は、「また、私は夢を見ましたよ。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいるのです」と言った。ヨセフが父や兄たちに話したとき、父は彼をしかって言った。「おまえの見た夢は、いったい何なのだ。私や、おまえの母上、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むとでも言うのか。」 兄たちは彼をねたんだが、父はこのことを心に留めていた。*

- * 二度も起これば偶然ではない。 ⇒ 二人の証人
- * ベテルで、天地をつなぐ梯子の夢を見たヤコブは、ヨセフの夢に、神の意図をくみ取っていたのだろう。



【使いへ出されるヨセフ】 創 37:12～14

その後、兄たちはシェケム*で父の羊の群れを飼うために出かけて行った。

それで、イスラエルはヨセフに言った。「おまえの兄さんたちはシェケムで群れを飼っている。さあ、あの人たちのところに使いに行ってもらいたい。」すると答えた。「はい。まいります。」

また言った。「さあ、行って兄さんたちや、羊の群れが無事であるかを見て、そのことを私に知らせに帰って来ておくれ。」こうして彼をヘブロンの谷から使いにやった。それで彼はシェケムに行った。

* あの大虐殺の地。一族の所有となっていた。



【不思議な出会いを経て】 創 37:15～17

彼が野をさまよっていると、ひとりの人が彼に出会った。* その人は尋ねて言った。「何を捜しているのですか。」ヨセフは言った。「私は兄たちを捜しているところです。どこで群れを飼っているか教えてください。」するとその人は言った。「ここから、もう立って行ったはずです。あの人たちが、『ドタンのほうに行こうではないか*』と言っているのを私が聞いたからです。」そこでヨセフは兄たちのあとを追って行き、ドタンで彼らを見つけた。

* この出会いが、運命の分かれ目に!!

* ますますイスラエルから離れていく兄たち!!

⇒まさに、ヨセフにとっての土壇場!!

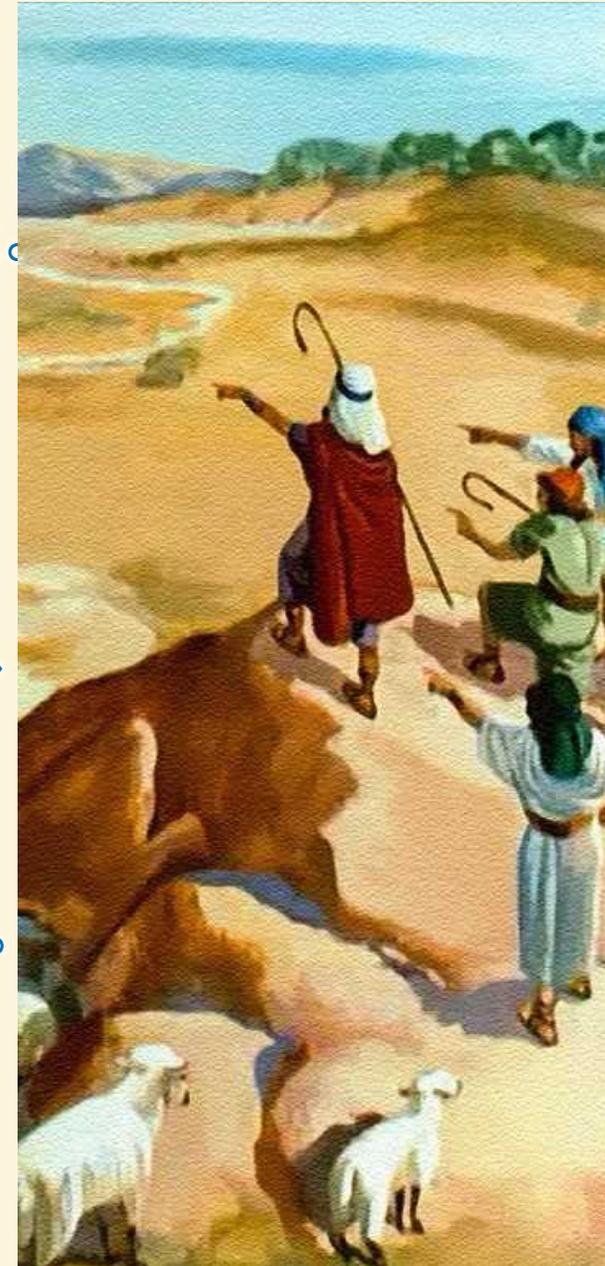


【兄たちの企み・ルベンの憐れみ】 創 37:18～22

彼らは、ヨセフが彼らの近くに来ないうちに、はるかかなたに、彼を見て、彼を殺そうとたくらんだ。彼らは互いに言った。「見ろ。あの夢見る者がやって来る。さあ、今こそ彼を殺し、どこかの穴に投げ込んで、悪い獣が食い殺したと言おう。そして、あれの夢がどうなるかを見ようではないか。」

しかし、ルベン*はこれを聞き、彼らの手から彼を救い出そうとして、「あの子のいのちを打ってはならない」と言った。ルベンはさらに言った。「血を流してはならない。彼を荒野のこの穴に投げ込みなさい。彼に手を下してはならない。」ヨセフを彼らの手から救い出し、父のところに返すためであった。

* 父に反逆し、父の側女ビルハと寝て、
長子権を剥奪された、長兄ルベンだったが…。

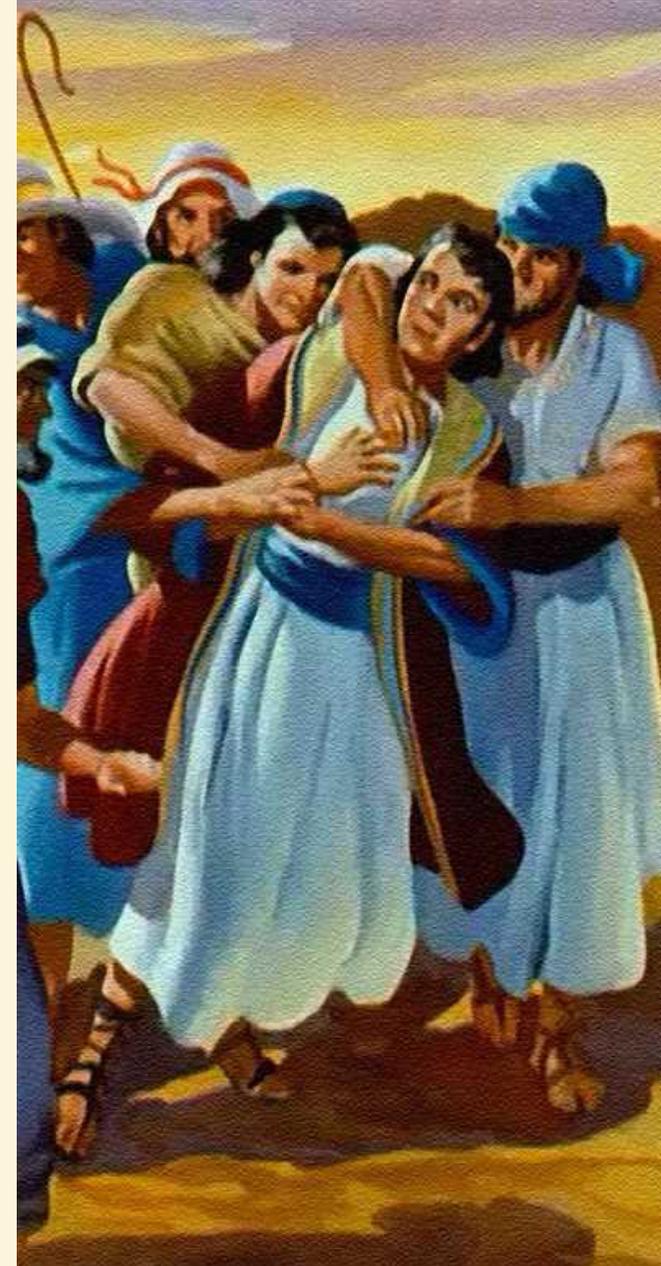


【捕らえられたヨセフ】 創 37:23～25

ヨセフが兄たちのところに来たとき、彼らはヨセフの長服、彼が着ていたそでつきの長服をはぎ取り、

彼を捕らえて、穴の中に投げ込んだ。その穴はからで、その中には水がなかった。*

それから彼らはすわって食事をした。*彼らが目を上げて見ると、そこに、イシュマエル人の隊商*がギルアデから来ていた。らくだには樹膠と乳香と没薬を背負わせ、彼らはエジプトへ下って行くところであった。



* 水があったら、溺死していた。

* 泣き叫ぶヨセフを放置して。兄たちの非情さ。

* 祖父イサク(存命)の腹違いの兄イシュマエルの子孫。神への反逆者たち。

【売られたヨセフ】 創 37:26

すると、ユダ*が兄弟たちに言った。

「弟を殺し、その血を隠したとて、何の益になろう。さあ、ヨセフをイシュマエル人に売ろう。われわれが彼に手をかけてはならない。彼はわれわれの肉親の弟だから。」

兄弟たちは彼の言うことを聞き入れた。

そのとき、ミデヤン人の商人*が通りかかった。それで彼らはヨセフを穴から引き上げ、ヨセフを銀二十枚でイシュマエル人に売った。イシュマエル人はヨセフをエジプトへ連れて行った。

*ユダ ...4番目の兄。

*ミデヤン人 ...アブラハムとケトラの子孫。

イシュマエル人に征服され、雑婚していた。



【父ヨセフのもとへ】 創 37:29～32

さて、ルベンが穴のところに帰って来ると*、なんと、ヨセフは穴の中にいなかった。彼は自分の着物を引き裂き、兄弟たちのところに戻って、言った。「あの子がない。ああ、私はどこへ行ったらよいのか。」

彼らはヨセフの長服を取り、雄やぎをほふって、その血に、その長服を浸した。そして、そのそでつきの長服を父のところに持って行き、彼らは、「これを私たちが見つけました。どうか、あなたの子の長服であるかどうか、お調べになってください」と言った。

* 一人離れ、ヨセフを救う算段を立てていた？



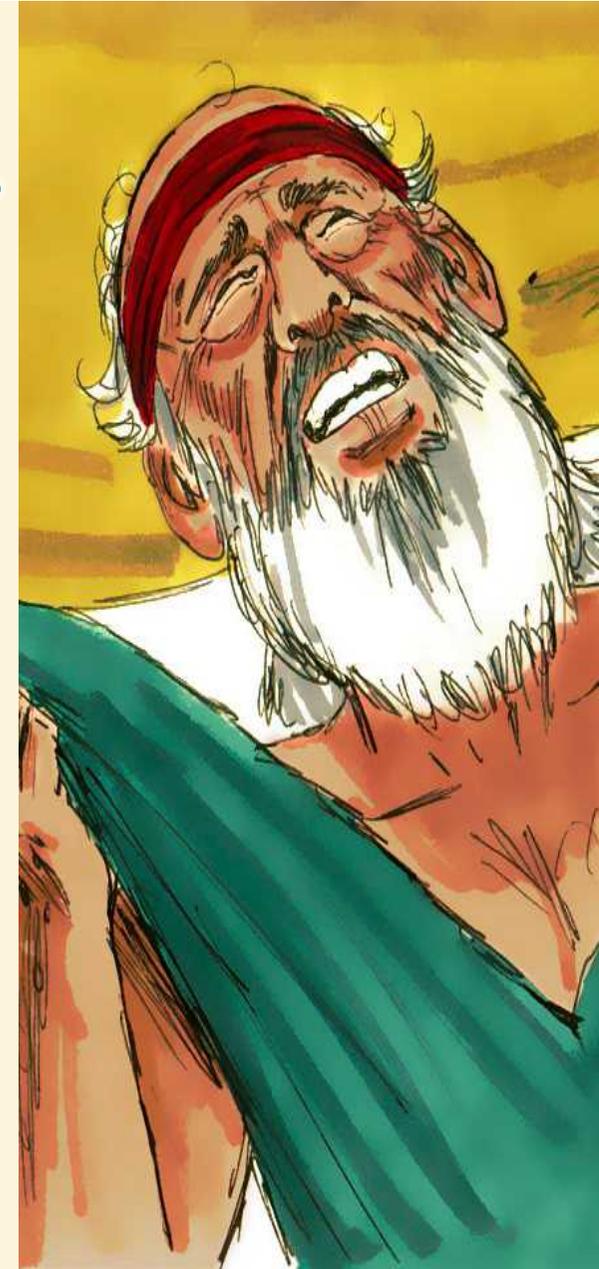
【ヤコブの悲痛】 創 37:33～36

父は、それを調べて、言った。「これはわが子の長服だ。悪い獣にやられたのだ。ヨセフはかみ裂かれたのだ。」

ヤコブは自分の着物を引き裂き、荒布を腰にまとい、幾日もの間、その子のために泣き悲しんだ。

彼の息子、娘たちがみな、来て、父を慰めたが、彼は慰められることを拒み、「私は、泣き悲しみながら、よみにいるわが子のところに下って行きたい」と言った。こうして父は、その子のために泣いた。

あのミデヤン人はエジプトで、パロの廷臣、その侍従長ポティファルにヨセフを売った。



【死後の世界】 旧約の時代
～イエス様の復活前～

天

神様を信じた人



神様を信じなかった人



シ
オ
ー
ル

パラダイス
アブラハムのふところ

陰府(よみ)

アバドン、ハデス

アビス
タータラス

ゲヘナ

Ⅱ. ユダの墮落

創世記38:1～30



【ユダのその後】 創 38:1

そのころのことであった。ユダは兄弟たちから離れて下って行き*、その名をヒラというアドラム人の近くで天幕を張った。そこでユダは、あるカナン人で、その名をシュアという人の娘を見そめ、彼女をめぐって彼女のところに入った。

彼女はみごもり、男の子を産んだ。彼はその子をエルと名づけた。彼女はまたみごもって、男の子を産み、その子をオナンと名づけた。彼女はさらにまた男の子を産み、その子をシェラと名づけた。彼女がシェラを産んだとき、彼はケジブにいた。

* イスラエルを離れ、偶像礼拝者カナンの風土に、完全に飲み込まれてしまったユダの不信仰。



【嫁タマルの数奇な運命】 創38:6～10

ユダは、その長子エルにタマルという妻を迎えた。
しかしユダの長子エルは【主】を怒らせていたので、
【主】は彼を殺した。それでユダはオナンに言った。
「あなたは兄嫁のところに入り、義弟としての務めを
果たしなさい。*そしてあなたの兄のために子孫を起こ
すようにしなさい。」

しかしオナン*は、その生まれる子が自分のものとなら
ないのを知っていたので、兄に子孫を与えないために、
兄嫁のところに入ると、地に流していた。彼のしたことは
【主】を怒らせたので、主は彼をも殺した。*

- * 家系を保つための当時の制度(レビラート婚)
- * オナニーの語源 ⇒ここでの本来の意味は違うけど!!
- * ユダの子孫に誕生するメシアを守るため!!

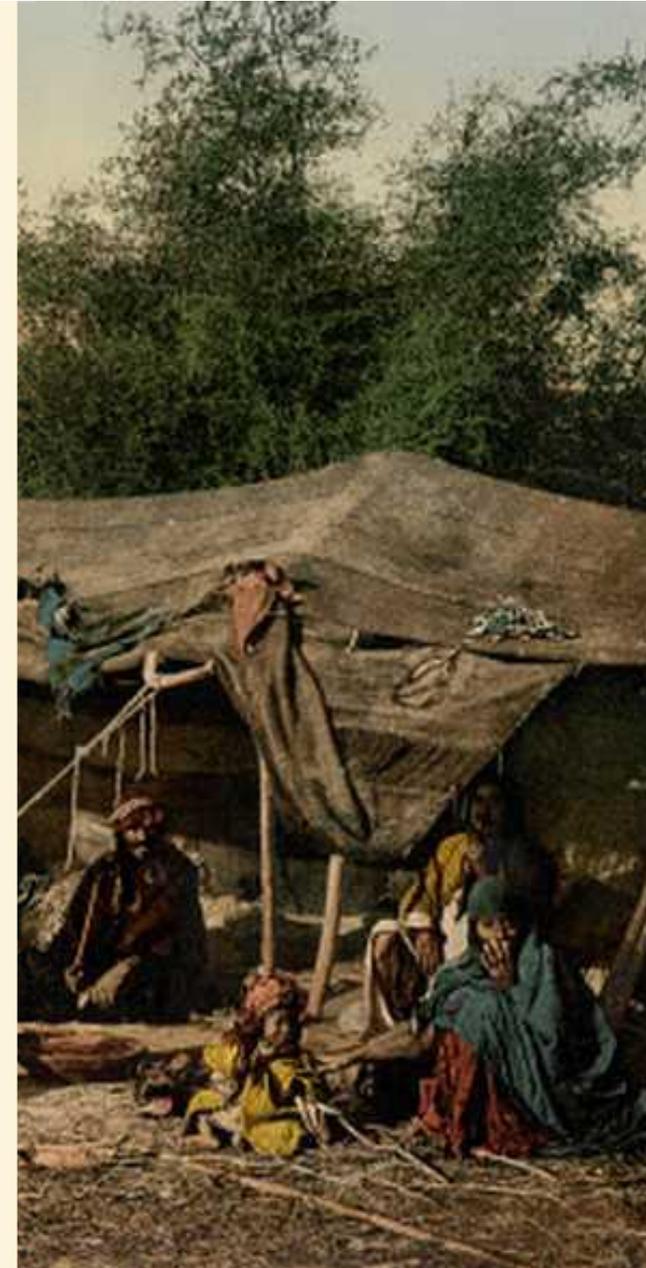


【放置されたタマル、ユダの妻の死】 創38:11～12

そこでユダは、嫁のタマルに、「わが子シェラが成人するまで、あなたの父の家でやもめのままでいなさい」と言った。それはシェラもまた、兄たちのように死ぬといけなと思ったからである。タマルは父の家に行き、そこに住むようになった。

かなり日がたって、シュアの娘であったユダの妻が死んだ。その喪が明けたとき、ユダは、羊の群れの毛を切るために*、その友人でアドラム人のヒラといっしょに、ティムナへ上って行った。

* 毛刈りの時期に、春の祭りが開催された。
性的儀式も伴い、異様な雰囲気にも包まれた。



【タマルの策略】 38:13～14

そのとき、タマルに、「ご覧。あなたのしゅうとが羊の毛を切るためにティムナに上って来ていますよ」と告げる者があった。

それでタマルは、やもめの服を脱ぎ、ベールをかぶり、着替えをして、ティムナへの道にあるエナイムの入口にすわっていた。* それはシェラが成人したのに、自分がその妻にされないのを知っていたからである。

* 遊女になりすまして、ユダを待ち構えるタマル。



【タマルを買うユダ】 創38:15～18

ユダは、彼女を見たとき、彼女が顔をおおっていたので遊女だと思い、道ばたの彼女のところに行き、「さあ、あなたのところに入ろう」と言った。彼はその女が自分の嫁だとは知らなかったからである。彼女は、「私のところにお入りになれば、何を私に下さいますか」と言った。

彼が、「群れの中から子やぎを送ろう」と言うと、彼女は、「それを送ってくださるまで、何かおしるし*を下されば」と言った。

それで彼が、「しるしとして何をあげようか」と言うと、「あなたの印形とひもと、あなたが手にしている杖」と答えた。そこで彼はそれを与えて、彼女のところに入った。こうしてタマルは彼によってみごもった。

* 売買春の支払いの保証となるもの。



【見つからない遊女】 創38:19～23

彼女は立ち去って、そのベールをはずし、またやもめの服を着た。

ユダは、彼女の手からしるしを取り戻そうと、アドラム人の友人に託して、子やぎを送ったが、彼はその女を見つけることができなかった。

その友人は、そこの人々に尋ねて、「エナイムの道ばたにいた遊女はどこにいますか」と言うと、彼らは、「ここには遊女はいたことがない」と答えた。

それで彼はユダのところに帰って来て言った。「あの女は見つかりませんでした。あそこの人たちも、ここには遊女はいたことがない、と言いました。」

ユダは言った。「われわれが笑いぐさにならないために、あの女にそのまま取らせておこう。私はこのとおり、この子やぎを送ったのに、あなたがあの女を見つけなかったのだから。」



【ユダの悔い改め】 創38:24～26

約三か月して、ユダに、「あなたの嫁のタマルが売春をし、そのうえ、お聞きください、その売春によってみごもっているのです」と告げる者があった。そこでユダは言った。「あの女を引き出して、焼き殺せ。」

彼女が引き出されたとき、彼女はしゅうとのところに使いをやり、「これらの品々の持ち主によって、私はみごもったのです」と言わせた。そしてまた彼女は言った。「これらの印形とひもと杖とが、だれのものかをお調べください。」

ユダはこれを見定めて言った。「あの女は私よりも正しい。私が彼女にわが子シェラを与えなかったことによるものだ。」それで彼は再び彼女を知ろうとはしなかった。



【タマルの出産】 創38:24～30

彼女の出産の時になると、なんと、ふたごがその胎内にいた。

出産のとき、一つの手が出て来たので、助産婦はそれをつかみ、その手に真っ赤な糸を結びつけて言った。「この子が最初に出て来たのです。」

しかし、その子が手を引っ込めたとき、もうひとりの兄弟のほうが出て来た。それで彼女は、「あなたは何であなたのために割りこむのです」と言った。それでその名はペレツ*と呼ばれた。

そのあとで、真っ赤な糸をつけたもうひとりの兄弟が出て来た。それでその名はゼラフ*と呼ばれた。

* ペレツ(出し抜く)。ゼラフ(真っ赤)。

■ メシアの系図につながるのは、弟のペレツ。



罪と混沌の中でも
つながれていく
メシアの希望

Ⅲ. まとめと適用

信仰者の試練と
不信仰者の刈り取り
すべてを越えて進む神の計画



【ヨセフの試練と ユダの刈り取り】

- ただ神を信頼し、父を敬愛していた、無垢な信仰者ヨセフ。
嫉妬した兄たちによって、不条理にも、奴隷に売り払われた。

⇒ 主を信じる者には、**試練**がある。

- 兄弟たちと共に悪に手を染め、弟を売り払ったユダ。
イスラエルを離れ、偶像礼拝のカナンに埋没し、
神へ反逆した二人の息子は、相次いで死に、
嫁タマルの策略に乗せられ、姦淫を犯した。

⇒ 主に逆らう者には、**罪の刈り取り**がある。

【ヨセフの夢 ユダの過ち 背後に働く主の計画】

■ 神が、ヨセフに見せた二つの夢は、苦難の中、将来の希望となった。

⇒ 信仰者を励まし導くのは、神が約束された将来への希望。

■ ユダの過ちから、タマルに生まれた、ペレツ(割り込み)。
しかし、このペレツの子孫に、あのメシアが誕生する!!

⇒ 人が犯す罪の結果すらも用いて、主の計画は前進する。

悔い改めた者は、この驚くばかりの主の恵みにあずかっていく。

ユダが、跡継ぎとなる二人の息子を得たように。

【ヨセフとユダに学ぶ、私たち信仰者の態度】

■ 信仰者には試練がある。

それでも恐れず、ヨセフのように主を信頼しよう。

■ 罪を犯せば、刈り取りがある。

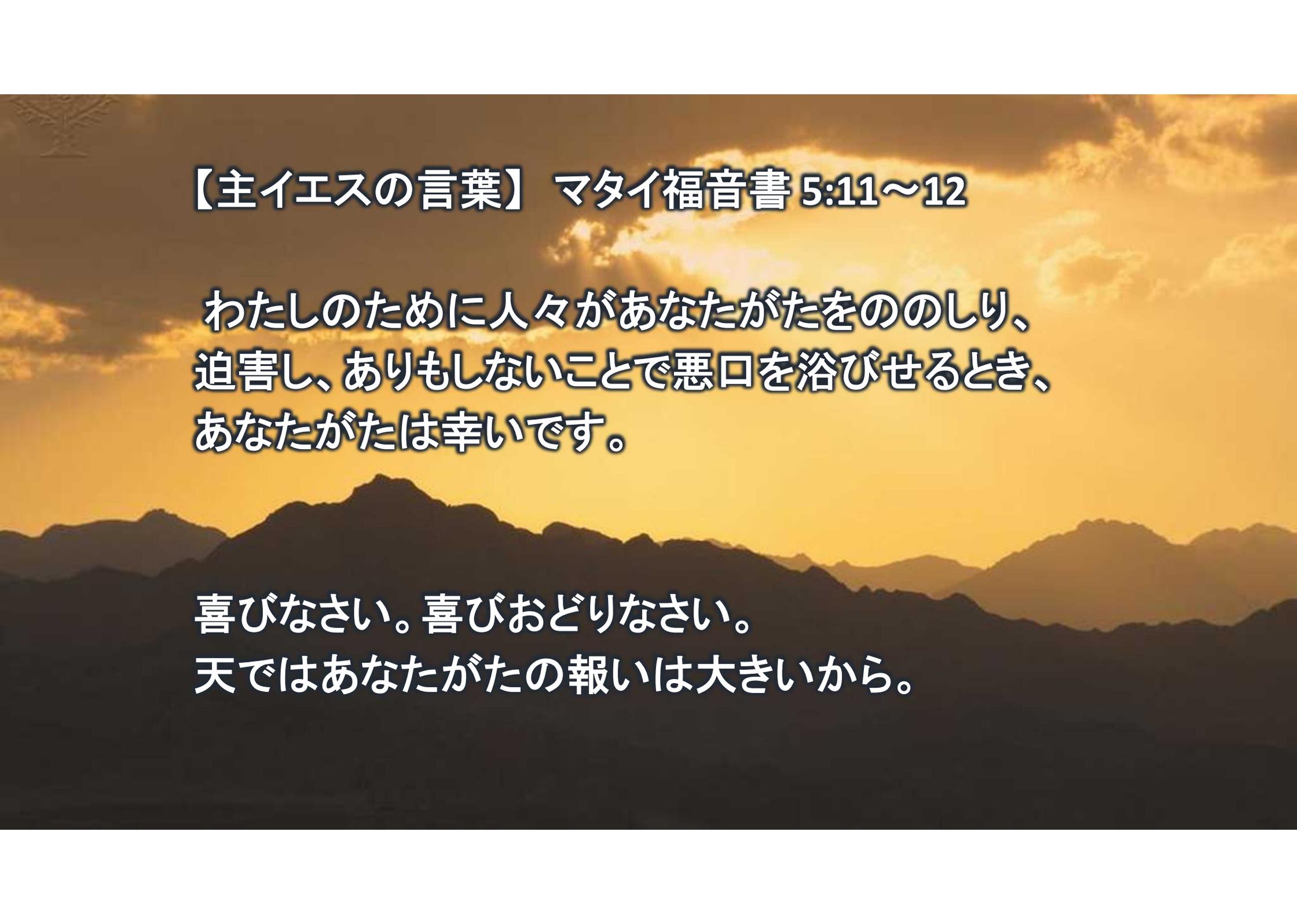
悔い改めるなら、罪の結果をも主が益として用いてくださる。

■ 主を信頼し、恐れず歩もう、福音を告げ、聖書を解き明かしていこう。

罪を犯した時には、悔い改めて、主に立ち返ろう。主が赦される。

■ わたしがどうあろうと、主の計画は進んでいく。

主を信頼して、試練を受ける者には、何より大きな恵みがある!!



【主イエスの言葉】 マタイ福音書 5:11～12

わたしのために人々があなたがたをののしり、
迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、
あなたがたは幸いです。

喜びなさい。喜びおどきなさい。
天ではあなたがたの報いは大きいから。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

ヨセフのように、ただ主(しゅ)を信頼(しんらい)する信仰(しんこう)に立(た)たせてください。

罪(つみ)を犯(おか)したときには、ユダのように悔(く)い改(あらた)めに導(みちび)いてください。

主(しゅ)が用意(ようい)されている、はかりしれない恵(めぐ)みがあります。

いつでも 希望(きぼう)をもって 歩(あゆ)む者(もの)としてください。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈ります。

アーメン」